

平成23年度 第16回 関東地区小学校社会科研究協議会研究大会(茨城大会)

第3学年提案 栃木県小学校教育研究会(社会科)足利支部

提案者 栃木県足利市立筑波小学校 柏瀬 順一

授業者 栃木県足利市立山辺小学校 松葉 信夫

栃木県足利市立山辺小学校 坂田 幸恵

研究主題「**よりよい社会を築こうとする子どもを育てる社会科学習**」

—自ら考え判断し、進んで社会に働きかける力の育成—

1 小単元名 工場の仕事の工夫 (平成21・22年度実践)

2 学習指導要領の目標及び内容の分析

本単元は、学習指導要領「社会」第3学年及び第4学年の目標(1)(3)を踏まえ、内容(2)のア、イ及び内容の取扱い(2)に基づいて設定されたものである。

【目標(1)について】

地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や(良好な生活環境及び)安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。

理解に関する目標である「地域の産業や消費生活の様子」については、地域の人々の生産活動や販売活動の様子には特色があることや県内には特色ある産業があることを理解できるようにすることにねらいがある。

態度に関する目標である「地域社会の一員としての自覚をもつようにする」とは、児童一人一人が地域社会の一員であるという意識や、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境、安全な社会を実現していくために共に努力し、協力しようとする意識を育てるようにすることである。

この目標を実現するためには、内容の(2)、(3)、(4)及び(6)の一部の指導を通して、地域社会の人々の様々な工夫や努力、協力をしていること、その結果、人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上が図られていることを理解できるようにするとともに、地域社会の一員としての自覚を育てるようにすることが大切である。

【目標(3)について】

地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

「地域における社会的事象を観察、調査する」とは、地域の地理的環境や人々の社会的生活の様子を具体的にとらえたり、その特色や相互の関連などを考えるために、地域における社会的事象を自分の目でよく見たり調べたりすることである。

「地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力」とは、自分たちの住んでいる市と県内の他地域との比較などによって人々の生活の特色について考える力や願いを実現していく地域の人々の工夫や努力、地域の人々の生活や産業と国内の他地域や外国との結びつ

きなどについて考える力を育てるようにすることである。

この目標を実現するためには、第3学年及び4学年の内容全体の指導を通して、学習問題に即して意欲的に観察、調査したり、地図や各種の具体的資料を活用したりして調べることができるようにする必要がある。また、調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手にも分かるように表現できるようにすることが大切である。

【内容(2)のア、イ及び内容の取扱い(2)について】

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

「地域の人々の生産や販売」とは、身近な地域や市の人々の農作物や工業製品などの生産や販売に関する仕事を指している。

「次のこと」とは、学習する際に調べる具体的な対象である、「地域には生産と販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること」「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」の二つを指している。

ここでは、地域の人々の生産や販売の様子を見学して調べることや、生産や販売の仕事に携わっている人々から話を聞いて調べること、原材料や商品の仕入れ先や生産物の出荷先、働く人の通勤圏などを聞き取り調査することが考えられる。

「それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする」とは、農作物や工業製品などの生産に関する仕事に携わっている人々がそれぞれの仕事の特色に応じて、他地域などのかかわりを持ちながら、様々な工夫をしていることを考えることができるようにすることである。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること

「地域には生産や販売に関する仕事があること」を調べるとは、自分たちの住んでいる身近な地域や市の人々の生産や販売に関する仕事の種類や分布を取り上げ、身近な地域や市には生産や販売に関する様々な仕事があることを具体的に調べることである。ここでは、生産に関する仕事として物をつくる工場の仕事を考える。

「それらは自分たちの生活を支えていること」とは、地域の生産や販売に関する仕事と自分たちとの生活の関わりについて取り上げ、自分たちの住んでいる地域や市の人々の生産や販売に関する仕事が、自分たちの生活を具体的に調べることであり生産に関する仕事が自分たちの市の産業として地域に根ざしていることや、生産されている物が自分たちの生活につかわれていること、工場などが、地域の人々の働く場所になっていることを取り上げることが考えられる。

実際の指導に当たっては、見学や調査、作業的な活動を取り入れて、具体的に調べることが大切である。市内の工場の分布について調査したり、資料を活用したりして白地図にまとめる活動、また、工場の仕事の様子を観察したり仕事に携わっている人から話を聞く活動を通して、生産や販売の仕事の工夫と自分たちの生活との関わりについて気づくようにすることである。

イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり

「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色」を調べるとは、工場の仕事については原材料の仕入、生産のおよその工程、働く人の服装や仕事の進め方、製品の販売などに見られる仕事の工夫を取り上げることが考えられる。

「国内の他地域などのかかわり」を調べるとは、原材料や商品の仕入、生産物の出荷、働く人

の通勤圏などに見られる結びつきを取り上げ、地域の人々の生産の仕事が様々な面で国内の他地域などとかかわりをもっていることを具体的に調べることである。

国内の他地域などとかかわりについて取り上げる視点としては、人と物の二つが考えられる。

人によるかかわりについては、工場で働く人が自分たちの市以外に住んでいる場合があり、物によるかかわりについては、自分たちの市の生産物が他の市へ出荷されたり、工場の原材料が他の市で生産されたりしている。県内はもとより広く国内の他地域や外国にも及ぶ場合もある。

これらの学習を通して、地域の生産や販売の仕事に携わっている人々の工夫を考えることができるようにする。

内容の(2)のイについては次のとおり取り扱うものとする。

ア 「生産」については、農家、工場などの中から選択して取り上げること。

ウ 「国内の他地域など」については、外国とかかわりにも気付くよう配慮すること。

内容の取り扱い(2)のアでは、地域の生産活動については、地域の実態から工場の仕事を取りあげる。

ウは、生産活動における原材料や商品の仕入先、生産物の出荷先などを調べる際、結びつきの見られる県や国の名称と位置を地図などで確かめる活動を行い、国内の他地域や外国ともかかわりがあることに気付くように配慮して指導する必要がある。

3 児童の実態(男子19名、女子16名、計35名)

①社会科への関心・意欲・態度について

「社会科が好きですか」という質問に対しての回答は、「好き」が9名、「少しすき」が20名、「あまり好きではない」が4名、「嫌い」が2名であった。クラスのほとんどの児童が、社会科は好きと感じている傾向にある。これまでの学習では、「私たちのまち足利」における地域の見学や、「売る仕事、作る仕事の工夫」におけるスーパーマーケットの見学など、実際に自分で見たり聞いたりして情報を得てまとめていく学習活動が多かった。自分の生活に結びつけながら考えたことなどを、友達と話し合い、協力しながら学習を行っている様子は、とても楽しそうであった。発表もグループごとで行ったが、必ず全員が話をするようにさせてきた。それは少しずつ慣れてきたように思う。

「あまり好きではない」「嫌い」と回答した児童にその理由を聞いてみると、「見学は楽しいが、その後のまとめたり、発表したりすることが苦手」とのことであった。

「社会科の学習でどんなことが好きか」の問いに対しての回答は、以下の通り。

実際に見に行くこと	好き 29名	ふつう 6名	あまりすきではない 0名
地図を見ること	好き 19名	ふつう 12名	あまりすきではない 4名
インタビューすること	好き 10名	ふつう 12名	あまりすきではない 13名
本などで調べること	好き 19名	ふつう 12名	あまりすきではない 4名
絵や文でまとめること	好き 22名	ふつう 9名	あまりすきではない 4名
発表すること	好き 12名	ふつう 21名	あまりすきではない 2名

②学習形態について

「問題を解決する場合、どのような調べ方が好きか(一人で調べる・グループで調べる・クラス全員で調べる)」の質問に対し、最も多かったのはグループでの活動であった。その主な理由は、「みんなで調べた方が分かる。」「分からないことは聞ける。」「一人よりも速く楽しい。」であった。そこで、本単元では、グループでいろいろな意見を出し合いながら、学び合いの時間を作りたいと考えた。

③工場に関することについて

「家の中に工場で作られたものには、どんなものがありますか。」の質問に対し、電気製品や衣類、鉄製品、文房具類、その他の道具などの回答だった。ほとんどのものが、工場で作られているということ、児童の多くは知っているようである。また、「地区にどんな工場があるか」という質問に対しては、全員が「アキレス」と回答し、靴を製造していることを知っていた。

「家の人が工場で働いているか」という質問に対し、半数以上の児童が「いない」と回答。工場を身近に感じていない児童が多いことが分かったので、本単元では、学校の近くにある「アキレス」の工場見学を通し、そこで働く人たちの仕事の様子や願いなどについて、考えていけるように学習を進めていきたい。

④対象児

	よ	さ
対象児A	社会科への興味関心が高く、教師の問いかけに対しての反応が速い。積極的に自分の考えを述べることができる。見学に行くと必ず質問する。分かったことを、絵や文でしっかりまとめることができる。	
対象児B	社会科への興味関心が高く、発言も積極的である。ノートの記述や見学のメモなどは自分なりに工夫し、しっかりとまとめることができる。グループ活動では、リーダーとして活躍することが多い。	

4 小単元の展開構想

(1)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる教材の開発について

①子どもが主体的にかかわり問題解決への意欲を高める実社会の教材開発

今回は次の理由で、アキレス株式会社(足利第一工場)を取り上げた。

- 本市副読本『のびゆく足利』に取り上げている。
- 工場が学区内にある。
- 児童がよくはく靴を製造している。(上靴・「瞬足」)
- 市内に工場が3つある。(上靴・長靴・「瞬足」の他にテント・断熱材なども生産)
- 市内でも最大規模を誇っている。
- 働く人や生産物が他地域や外国とのかかわりもある。

②社会に生きる人間の姿を追究できる教材の開発

普段履いている靴が、地元にある工場で、どのように作られているのかを知ること自体児童にとっては大切である。さらに機械化された流れの中で、工場で働く人たちがどのように作業に関わっているかを考え、実際に見学することは、単なる靴製作だけでなく、ものづくりの立場から見ることができる。

③今日的な課題や視点を重視した教材の開発

今回見学する工場でも、製作全体を行っておらず、原材料からの加工は中国、デザインの一部も外国の会社へ委託している。グローバル化にとめない、それぞれのメリットを生かして日本の企業が動いていることを知ることができる。

また企業の理念として、利潤追求以外にも「社会との共生」も打ち出しており、製品の提供という視点から社会に貢献しようとしている姿が見られる。

(2)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習過程の工夫について

①社会とかかわり、ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程の工夫

1)社会とかかわりをもって学ぶことができる学習過程

何気なく履いている靴には、足を保護するだけでなく、機能性やデザイン性が求められている。児童自身も校庭のトラックを走ることに適した靴を求める流れが現在もあり、それを企業は提供している。そこで、今自分が欲しい靴を考えることで、靴に対する自分の思いを具現化したい。それを基に、工場ではどんな工夫をしているかを考えさせたい。

2)ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程

自分で考えた靴をもとに、工場見学をした中で発見した事柄を踏まえて、グループで話し合いをしながらおすすめする靴を考える。そこでは、多くの要素を加えるよりも、一言で分かる「セールスポイント」をキーワードにすることで、自分たちのコンセプトを明らかにする。

②社会と自分とのかかわりを意識し、学習のめあてを明確にもてる学習問題の工夫

単なる思いつきで靴を考えるのではなく、見学での成果を生かすことや話し合いの中である程度メンバーを納得させることができることで、社会とかかわりをもたせたい。わがままやこだわりだけでは独りよがりになるが、メンバーへ説明したり、意見を聞いたりすることでお互いとかかわりをもたせたい。また可能なら靴にかかわる人からの意見も聞くことで、現実的な面に触れることも大切と考える。

(3)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習活動と支援・評価の工夫について

①人や社会とかかわりを大切にしたい学習活動と支援の工夫

工場見学で学習したことを知識として知るだけでなく、それをもとに自分たちが考えた設計を話し合いで深める学習活動を取り入れたい。夢物語ではなく、具体的に見てきた実際の場面を常に頭の中に入れて話し合うことで、そこで働く人や製品を買う人の思いを考えさせたい。そのための支援としては、常に「工場見学の成果」へ振りかえる声かけなどを行うようにしたい。

②社会を実感し、考え判断する力を育てる体験的な活動と支援の工夫

工場見学の事前学習として、自分の靴を考えておくようにさせる。靴を作るような過程が工場にあるのかや質問を考えさせておく。また靴を作る人たちとかかわりから、それぞれ

のコンセプトに対する意見を述べる場面をできるだけ設定する。それにより自分たちでは思いつかない、多面的な意見を聞く事ができると考える。

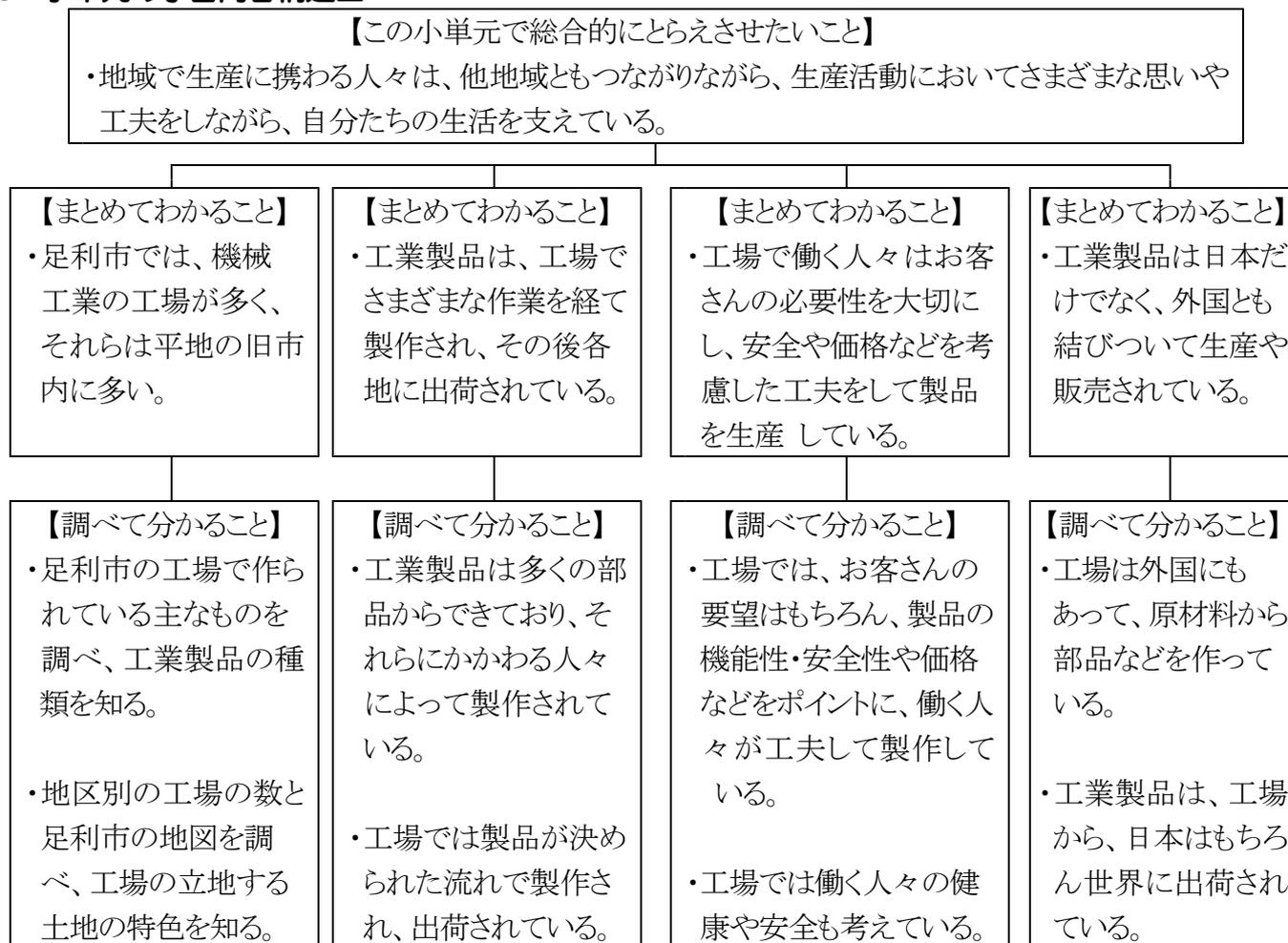
③ともに学び、考えを深め合う活動と支援の工夫

見学後の話し合いの中で、自分だけの靴からグループのおすすめの靴を考えさせる。その際は、自分の靴のよい点をメンバーに伝え、理由や手立てなどを付け加えることで、メンバーを納得させるようにする。意見の根拠を明らかにしていくことの大切さを、話し合いの中で進めていきたい。そのためにはワークシートや机間指導などで、理由や手立てを明らかにするように指導していく。その際、ワークシートなどでは、教師が目を通して朱書きなどを入れることで、ヒントやサポートをしていくことができると考える。

④自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる評価と指導・支援の工夫

工場見学の質問を作成する際、オリジナルの靴にかかわる内容が表れたり、ものづくりの工夫を知ろうとする内容のものになるように周知するとともに、自分の設計した靴を踏まえた質問には賞賛する。ワークシートなどを活用することで、学習成果を残すことができ、自分の学習過程を知るようにさせることもすすめていきたい。

5 小単元の学習内容構造図



6 小単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

工場の仕事を調べることを通して、工場で働く人々はよい製品を作ったり、売ったりするために工夫していることに気付くとともに、土地の様子に合わせ、他地域ともかかわりながら生産活動を進めていることに気付くことができる。

(2) 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある生産(工場)の仕事に関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。 ・地域の工場の仕事の理解に基づいて、地域の人々の仕事について関心を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある生産(工場)の仕事の様子から学習問題を見いだして追究し、それらの仕事に携わっている人々の工夫について思考・判断したことを言語などで適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生産(工場)の仕事の様子を的確に見学、調査したり、具体的資料を活用したりして、必要な情報をまとめて読み取ったり、まとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には生産(工場)に関する仕事があり、それは自分たちの生活を支えていることが分かっている。 ・地域の生産の仕事の特色が分かっている。 ・地域の生産の仕事が国内の他地域や外国などにつながりがあることが分かっている。

7 小単元の基本的な展開計画と評価計画

(総時数 13時間)

過程	時間	ねらい	主な学習活動	評価
つかむ	1	○足利市の工業の特色をグラフや絵図から考えることができる。	○副読本の資料をもとに足利の工業生産物の種類について調べる。	○足利市の工業の特色を考え、理解することができたか。
	2		○副読本の絵図を白地図に転記することにより、どのような地区に工場がたくさんあるか調べる。	
	3	○「アキレス」の工場について調べることを知り、学習の問題を考えることができる。	○製品の一部分から完成品を予想し、それが学校の近くの工場で作られていることを知る。 ○製品がどのように作られているのか予想し話し合う。 ○学習問題を立てる。	○自分なりの学習問題をもつことができたか。
見通す	4	○工場ではどのような工夫をして製品作りをしているか考えることができる。	○工場ではどのような工夫をして製品を作っているのか予想しながら、自分たちでも製品の設計にチャレンジする。	○自分なりの工夫を生かして、靴を設計することができたか。
	5	○工場見学の計画を立てることができる。	○副読本や他の資料、インターネットなどを活用し、調べることを明確にさせる。 ○見学カードを作り、見学日、場所、持ち物、見てくると、聞いてくることを記入する。	○工場の仕事に興味をもち、意欲的に調べようとしているか。
調べる	6	○調べる計画にそって工場を見学し、自分の問題を解決することができる。	○見たこと、聞いたことを作業用紙に記入する。 ○事前に考えた質問を、担当者に伝え答えてもらう。	○製作の様子や作業工程の工夫、働く人の思いや願い、他地域とのつながりなどを調べることができたか。
	7		○作業用紙をもとに、分かったこと、気づいたこと、さらに調べたいことなどを明確にする。	

週	時間	ねらい	主な学習活動	評価
学び合う・社会に働きかける	8 ・ 9 ・ 10	○見学して分かったことをまとめ、発表することができる。	○個人で発見カードを作成する。 ○グループで発見カードを持ち寄り、模造紙に貼りながら分類をし、見学で分かったことをまとめる。 ○グループごとに発表をし、話し合いをする。	○グループで協力しながら調べたことを絵図や新聞にまとめ、他のグループの人に伝えることができたか。
	11	○見学して分かったことをもとに、工場の仕事の工夫について自分なりの考えをもち、自分の理想の靴の再設計をすることができる。	○見学で分かったことを取り入れながら、事前に設計した靴の再設計を行う。	○見学の結果を取り入れて、自分なりに工夫しながら靴の再設計ができたか。
	12 本時	○グループで話し合い、理想の靴を提案することができる。	○グループのメンバーに、自分が設計した製品を説明する。 ○グループで話し合いながら、理想の靴を設計して、発表をする。	○グループで自分の考えを発表し、提案に加わることができたか。
	13	○自分たちのグループの理想の靴について発表する。	○前時に未発表のグループが、発表する。	○自分たちの提案が発表できたか。

8 指導の実際

(1) とりあげた授業について

① 本時の指導(12/13時)

ア 題目 グループでおすすめの靴を考えよう。

イ 目標

- ・見学して分かったことや図書室などで調べて分かったことをもとに、マイシューズについて話し合うことができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・靴を作る上での工夫について、工場の人びとが工夫していることが理解できる。
(社会的な事象への知識・理解)

ウ. 展開(平成22年12月2日 木曜日 第5校時 山辺小学校4年 指導者 坂田 幸恵)

学習活動	時間	教師の支援	評価・資料
1. 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習内容を確認する。 グループでおすすめのくつを考えよう。	5	・前時の学習内容を振り返り、本時のめあてを確認して、意欲を高めさせる。 ・工場の人や、家族の意見をふり返り、靴作りで大切なことを確認する。	

2. グループで話し合い、設計する。	25	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの観点をもって、設計にあたることができるよう、今までの学習資料を提示する。 ・観点を提示し、それらにそって話し合えるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ①どことなくつを考えたか。 ②それを考えたのはどうしてか。 ③工夫したことはどこか。 ④一番アピールしたいのはどこか。 ・発言が苦手な児童もスムーズに発言できるよう、ひな形を用意し、それを参考にさせる。 ・効率良く話し合いができるよう、班長を中心に行うように指示する。 ・意見を出し合いながら、大まかな設計図も描けるようにする。 ・それぞれの意見が視覚でもとらえられるよう、付箋を使用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学して分かったことや図書室等で調べて分かったことをもとに、マイシューズについて話し合うことができている。(観察・作業用紙) ・靴を作る上での工夫について、工場の人びとが工夫していることが理解できている。(観察・作業用紙)
3. グループで話し合ったことを全体で発表する。	12	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの設計図を紹介し、さまざまな観点に目を向けて考えることができるようにする。 ・聞く際に、よいところを見つけさせるなどして、互いに認め合えるようにする。また、発表するのは1、2グループとする。 	
4. 本時の学習を振り返る。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、がんばったことを確認させるとともに、振り返りカードに記入させる。 	
5. 次時の予告を聞く。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、本時の発表できなかったグループの発表と本単元のまとめを行うことを知らせる。 	

(2) 授業の実際(単元計画レベル)

時数	主な学習活動 および 児童の様子(A児・B児・全体)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・足利の工場では、どんな品物が作られているか調べよう。 <p>A児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りは、友達の意見を聞いて理解。ワークシートへの記入は、時間がかかる。文字を書くのが遅い。 ・プラスチック類についての教師の説明を聞き、身の回りにたくさんあることに興味を示す。 <p>B児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りは正答。機械、プラスチック、金属などについての詳しい説明を真剣に聞いていた。 <p>全体の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械が多い。・生産額約 1200 億円でびっくり。・プラスチック製品も作っている。 ・例えばどんなものがあるのかな。
	<ul style="list-style-type: none"> ・足利のどのようなところに工場がたくさんあるのか調べよう。 <p>A児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白地図作業は、色塗りに時間がかかった。旧足利市に工場が一番多いことは分かる。数も正確に出せた。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・足利市の北部は山が多いということが想起できた。 <p>B児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白地図の作業は、丁寧で速い。工場数は、旧足利市が1番多いこともすぐに分かった。その理由や北部より南部の方が多理由についても交通・土地の様子に関連づけて考え発表できた。 <p>全体の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧足利市に多い。(足利市の中心、大きな道路が通っている) ・足利市北部より南部に多い。(国道 50 号線、平地であることなど。)
3	<p>・「アキレス」では、どのようにして品物を作っているのでしょうか。</p> <p>A児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・靴ができあがるまでの工程を教科書で確認することができた。 ・原料のサンプルを見て、どのように混ぜ合わせるのか疑問をもった。 <p>B児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上履きの未完成品(甲と底の部分)や原料に興味深そうに見ていた。 <p>全体の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン、原料を混ぜ合わせること…検査、箱につめる… ・原料は、どうやって混ぜ合わせるのかな。 ・いろいろな仕事があるんだね。デザインをしてみたいな。
4	<p>・自分たちで、くつのせつけいを試みよう。</p> <p>A児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動靴を設計。砂が、靴の中に入らないようになっていることや、雨の日用の滑り止め、サイズが調整できる等のアイデアを考えて記す。 <p>B児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長靴を設計。丸洗いでできること、折りたためることなどアイデアをたくさん考え描くことができた。暗いところでは光るという安全面でのアイデアも入れられた。 <p>全体の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなくつがあつたらいいな。・アイデアがいっぱい考えられた。 ・もっと描いてみたい。簡単だと思ったけれど、やってみたらけっこうむずかしかった。 ・楽しかった。
5	<p>・「アキレス」の工場を見学する計画を立てよう。</p> <p>A児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見てくるもの2つ。(靴の作り方、検査で失格だった製品の行方) ・質問したいこと2つ。(原料はどこからどうやってくるのか、靴1足ができあがるまでの時間) <p>B児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見てくるもの6つ。(働く人の様子、製品、機械など) ・質問したいこと7つ。(アキレスは日本にいくつあるか?等)

全体の様子

- ・聞きたいこと、見てきたいものを考える。注意することを確認。
- ・工場はきっと、広いんだろうなあ。大きな機械がたくさんあるのかな。
- ・何人ぐらいの人が働いているのだろうか。

・「アキレス」の工場を見学しよう。**A児の様子**

- ・書くことが普段からなかなかスムーズに進められない本児だが、分かったことを見学カードに文章で8つも書くことができた。

B児の様子

- 6
- ・メモしてきたことは、主に説明を受けたこと。
 - ・（他の児童があまりメモをしていないようなことも書いてある。）
- 7
- ・質問タイムでは「検査で不合格だった靴はどうなるのか」と質問する。
 - ・マイシューズの評価を受ける。
 - ①女の子らしい作品である
 - ②丸洗いできるところがいい。使った後のことを考えているやさしいくつである。
 - ③記名スペースがあることや折りたためることなどのアイデアがすばらしい。 など

全体の様子

- ・工場はとても広かった。トラックがたくさん止まっていた。学校で勉強した原料があった。
- ・くつが上にぶら下がっていたのでビックリ。アキレスの箱がたくさん重なっていた。
- ・臭いがした。

・調べてわかったことをまとめ、発表しよう。（丸数字は時数を示す。）**A児の様子**

- ⑧3枚記述。（検査で失格だった製品のその後について、原料は石油であることについて、甲と底をつけるのにかかる時間は7秒であること）表記違いが多いので、次時も読み返しをさせながらの指導が必要。

- ・振り返りシートでは、はじめは発見カードに何を書けばよいのか分からなかったと記入。

- ⑨発見カードの見直しの時は、3枚中1枚だけ直した。

- ・（教師が指摘したもの）グループ内での発表は、はっきりと言うことができた。

- ・まとめる時に、カードの見出しと内容が違うカードがあったので、訂正。

- ・（教師が指摘したもの）自分で、間違いに気づくことはできなかった。

- 8
- ⑩同じグループの子が発表するときに、指示を出していた。

- ・アキレスで働いている人の数について発表する。

- 9
- ・友達が書いたカード（靴ができる速さ）をとぎれとぎれだが読んだ。

- ・後半、ほかのグループの発表を聞いているときに飽きて手わすら。

- 10
- ・グループ発表の合間に「工場入り口が、自動シャッターなのはなぜだと思うか？」との教師の問いかけに挙手して立ったが、恥ずかしかったのか座ってしまう。

B児の様子

- ⑧発見カード5枚記述。文章表現に工夫が見られる。(クイズのように表記)読み手を意識している。振りかえりシートから、見学時のことをよく思い出していることが分かる。
- ⑨グループ内での発表では自分はもちろん、友達の発表にしっかりと耳を傾けていた。
 - ・分類の活動も班長として積極的に行い、作業もスムーズであった。
 - ・次時の発表の練習までしっかりできた。
- ⑩自分の発表分担を大きな声で、しっかりと言うことができた。
 - ・最後に感想として、見学で分かった工場の人のお気持ちを代入して述べた。

全体の様子

- ・発見カードをたくさん書いた。・友達のカードも合わせて分類した。
- ・むずかしかったです。・まよいました。・発表の時ドキドキしました。
- ・発表の練習を、もっとうまければ良かった。・〇〇ちゃんは発表が上手だった。

・見学や学習で分かったことなどを取り入れて、マイシューズの再設計をしよう。(より良いものにしよう。)

A児の様子

- ・防水、すべり止め、砂が入らない、夜に光る機能を残す。
- ・デザイン的には、かなりすっきりし、靴らしくなった。

11 **B児の様子**

- ・折りたためて携帯できること。記名スペース、光る安全性、くつの中に水が入ってこない等のアイデアを残す。
- ・防水機能、素材の柔らかさ、くつ底にもデザインをつけることを追加。

全体の様子

- ・工場の人のお気持ちを考えて、付けたしも行えた。
- ・マイシューズを見直して、前より良いものができたような気がします。

・マイシューズの良いところを話し合い、グループでおすすめのくつを設計して発表しよう。

A児の様子

- ・グループ内の話し合いでは、自分の考えをしっかりと発表できた。
- ・グループのおすすめのくつの発表の場面では班長の補助となった。
- ・他のグループの発表に興味をもって聞くことができた。

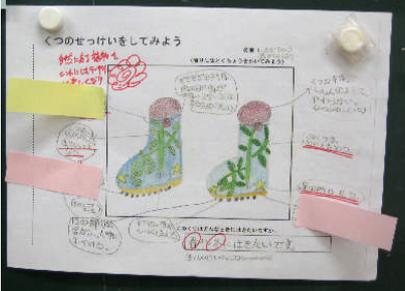
B児の様子

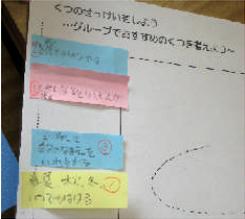
- 12 (本欄) ・話し合いに積極的に参加。リーダーとして、意見をうまくまとめようとしていた。
- ・手際よく設計図を仕上げ、発表の練習も熱心に行う。発表では、要点をまとめ堂々とシューズの説明を行った。
- 13 ・他の班の発表も熱心に聞いていた。

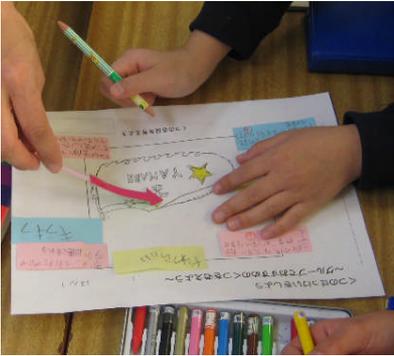
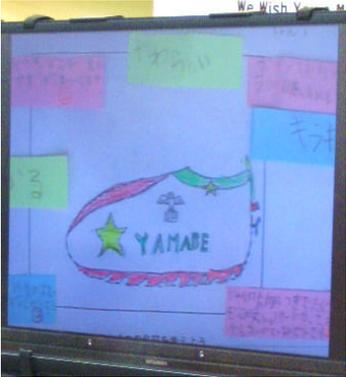
全体の様子

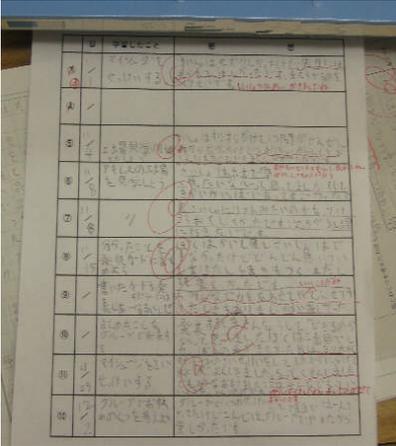
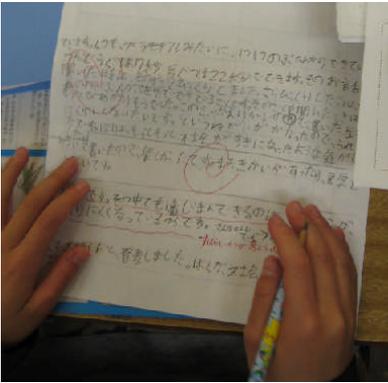
- ・みんなの設計のよいところをあわせるのは簡単そうだったけど、結構むずかしかったです。
- ・自分の意見も設計に入っているので、うれしい。
- ・付せんを使っての勉強は初めてなので、楽しかった。
- ・発表のじょうずな班があった。

(3) 授業の実際(本時)

主な学習活動	時間	対象児A	対象児B	全体
<p>1. 前時までの学習内容をふり返り、本時の学習内容を確認する。</p> <p>・工場見学の確認・まとめ</p> <p>靴の安全面(ピンク) 速く走る機能(ピンク) デザインの工夫(青) 販売の工夫(黄色) 家族からのアンケート マイシューズの再設計</p> <p>・本時のめあてを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>グループでおすすめのくつを考えよう。</p> </div> <p>・話し合いメモを確認する。</p>	5	<p>・教師の説明をよく聞いている。姿勢も良い。</p> 	<p>・前時までの学習のふり返りをしっかり聞いている。</p>  <p>・はっきりと皆と声を合わせてめあてを読む。</p> <p>・前時に書いた設計図のアイデアを見て、鉛筆キャップで一つ一つ指しながら黙読する。</p>	<p>・班の席だが、黒板に体を向けて教師の話聞く。</p> <p>・初めは黙読、その後一斉で音読。</p>
<p>2. グループでマイシューズについて話し合う。</p> <p>・再設計したものに友達から付せん紙ではられた意見を参考に、グループで1つの靴を設計する。</p> <p>(話し合いの手順)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①マイシューズの説明をする。 ②そのわけも言う。 ③自分の工夫した3点を話す。 ④自分のアピールポイントの付せん紙から1つか2つを選んで、グループのワークシートに貼る。 	25	<p>・発表の練習を意欲的に取り組む。</p> <p>・班長ではないが、進んで進行役となり、発表の順番を決める。</p> <p>・友達の発表が終わると真っ先に拍手をしている。</p> <p>・「マイシューズを見せながらやったほうがいいよ。」とアドバイスする。</p> <p>・自分の書いたシート「夏にはきたいくつ」を見せながら、大きな声で発表した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サイズが変わる。 ②危ないとセンサーが鳴る。 <p>・グループ案を積極的にまとめようとする。</p> <p>・「くつの名前を変えよう」「アピールポイントの付せん紙貸して」</p>	<p>・リーダーとして、発表の順番を皆に知らせる。</p> <p>・トップバッターとなり、自分の設計図について説明する。アイデア図を皆に向けて、見やすいようにキャップで指し示しながら、3点のアイデアを説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①口がゴムで伸びたり縮んだりするので、水が入ってこない。 ②洗ったらすぐに乾く。(約10分) ③折りたためて、どこへ持っていくことにも便利。 <p>・2人目～4人目の発表をしっかりと聞き。終わると、一人一人に大きな拍手を送る。</p> <p>・教師の問いかけにうなずく。また、グループの設計に進んでよいかを教師に尋ねる。</p>	<p>・班ごとに、班長を中心に話し合いを始める。</p>

主な学習活動	時間	対象児A	対象児B	全体
 <ul style="list-style-type: none"> 各班の発表がほぼ終わり、付せん紙の意味について色を参考に全部の色があった方がいいことを再確認する。 各班の班長を中心に、グループのワークシートに、意見を取り入れて靴を設計する。 みんなの意見をもとに設計図を描く。 <ul style="list-style-type: none"> 形を決める。 アイデアを絵であらわす。 完成したおすすめの靴を発表する。 <p>班長 → 発表の練習。 メンバー → 色ぬり。 靴の名前を考える。 発表の練習を聞いてアドバイスする。</p> 		<p>「黄色の付せんを増やそうよ」 「ひもじゃなく、マジックテープにしようよ」等、進んで発言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みんなで書こうよ」とグループ案の絵を描きたい様子。 絵の隣に貼られた付せんをひとつひとつ読み上げながら靴の色塗りをする。 「センサーがいっぱいだよ」と気づき、同じような付せんをはずす。 「センサーはこのへんにしようよ」等と熱心に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> この後、リーダーとして、皆の意見を聞きながら話し合いを進める。 どの色の付せん紙が大切かの教師の問いに何度も挙手し、発言しようとするが指名されない。 教師の指示を受けて、「付け足したらいいと思うのは、ない？」と皆に投げかけることで、デザインに付せんが増える。 「○○ちゃんこれいいね！」や「△△と◇◇は同じだね。」など、グループの意見をまとめようと働きかける。 「模様を考えていこうよ！」と投げかけ、皆に意見を聞く。様々な意見が出たので、そのうちのどれを採用したいか、グループの皆に問う。 グループの意見がハートに一致したところで、「ベースになる色を決めよう！」と話し合いを進め、ピンクに決定する。 友達の「何かテーマになるものを決めよう！」の意見に賛同。自らクローバーがよいのではと意見を出し、同意を得る。 グループのデザインにクローバーを6つ描き込む。 クローバーの色決めをするために、クーピーを何色か出し、皆に見てもらう。皆に意見を求め、決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの班のワークシートを見て、付せん紙の色を確認する。 ワークシートに自分たちのおすすめの靴を設計しはじめる。

主な学習活動	時間	対象児A	対象児B	全体
			<ul style="list-style-type: none"> 靴の名前を皆に問う。いくつか名前が出たところで、グループ内で多数決をとる。 発表シートに、話し合いの結果を書き込む。 まだ十分な話し合いができていないことについて、付せん紙を読み返し、発表シートに記入する内容を一人で考えている。 	
<p>3. グループで話し合ったことを全体で発表する。</p>  	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの発表をよく聞いている。 発表が終わるとすぐに拍手を送っている。  <ul style="list-style-type: none"> 自分たちのグループの発表で、班長ではないが、「感想、俺言うよ」といって手伝いに出る。 「2回目の話し合いの方が楽しかったです。」と大きな声で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> B児が発表する。  <ol style="list-style-type: none"> 靴の名前は「クローバーシューズ」 (設計図を指し示し,)キラキラ光る。色は水色とうすいオレンジ。 洗ってもすぐに乾く。 暑いときは冷たくなり、寒いときは温くなる。 みんなで設計してとても楽しかった。 <p>※グループでの話し合いが十分にまとまっていない段階での発表だったので、不安そうに前に出て行ったが、しっかりした発表を行うことができた。クラスの皆から拍手をもらい、うれしそうにしていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の班の発表をよく聞き、拍手を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1班の発表を聞く。(テレビに映った靴のデザインを見て、) わあ、すごい! A児・B児などの発表を聞くと、拍手する。 8班が発表する。

主な学習活動	時間	対象児A	対象児B	全体
<p>4. 本時の学習を振り返り、頑張ったことや感想をふりかえりシートに記入し、発表する。</p>  	4	<p>・感想をふりかえりシートの裏面までいっぱい書く。</p>  <p>・進んで挙手し、「2度目のほうが安全にできました。みんなでできてうれしいです。1枚目はへたくそだけど、2枚目はよくできたと思いました。自分ではこんなきれいにかけるなんて思わなかったです。」と元気に発表する。</p>	<p>・ふりかえりシートに感想を記入する。枠内に収まらず、裏面にまで自分の思いをびっしりと書き込んでいる。</p> <p>「今日はみんなのくつのせつめいを聞いたり、せつめいしたりしました。こんなアイデアがあったんだと思いました。みんなのアイデアを入れて作ったくつの名前(クローバーシューズ)は、クローバーの『幸せ』を表しています。クローバーはかわいいし、『幸せ』を表しているので、クローバーを主に使いました。とても楽しかったです。」</p> 	<p>・ファイルを出して、カードに感想を記入する。</p> <p>・感想の発表をする。</p> <p>・3班、4班8班、2班の児童が発表。(内容は下記の通り)</p>
5. 次時の予告を聞く。	1			
<p>(他の班の発表)※丸数字は班の番号</p> <p>③みんなが自分の1番のアピールポイントを取り入れて靴を作ったので、嬉しかった。</p> <p>④みんなで仲良く楽しくできた。今度やるときはみんなの前に出てやりたいです。</p> <p>⑧いつもと違って、班だけの靴を考え、下書きをして完成させました。友達とも発表しました。</p> <p>僕が学んだ社会の中で、今日のことが一番心に残りました。</p> <p>③グループのみんなで、一緒にくつを作ることができました。楽しかったです。</p> <p>自分でもどんな物ができるのか分かりませんでした。</p> <p>②自分一人でやるより、みんなでやった方がいいくつもできて、楽しかったです。</p>				

9 考察

(1) 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる教材の開発について

①子どもが主体的にかかわり問題解決への意欲を高める実社会の教材開発

児童にとっては「瞬足」はもちろん、上靴にもアキレスのものを使う子が多く、なじみがある。特に「瞬足」は、ソール部分に特徴があることを子ども達は知っており、「マイシューズを作ろう」では、デザインはもちろん、ソールの部分までアイデアを出している。また、事前に子どもの設計図を見てもらい、自分のアイデアを工場の人たちが見ていたということで、身近な存在を感じたようである。

②社会に生きる人間の姿を追究できる教材の開発

工場見学では、事前に児童のアイデアを見たデザインの係の人がコメントを添えてもらえる場面もあり、靴を製造するだけではなく、デザインや機能(安全面)、それに販売とい各部門の人たちがいることを確認することができた。またかなりの部分を外国の工場で作られていることを知った。そのため、児童は学区の工場の人たちだけでなく、世界(特に中国)の人々の手を渡ってきていることに気づいた。

③今日的な課題や視点を重視した教材の開発

アメリカと中国に工場があり、特に中国には3つあることや、学区の工場で扱う材料は中国の工場で加工されたものである。また製品は東南アジアにも輸出されており、製作段階と販売段階で世界とつながっており、現在の世界的な流れを扱うことについては有効であった。

授業では扱わなかったが、工場の資料では廃棄物をなくす「ゼロ・エミッション活動」やISO-14001 認証取得などを取り上げて説明することもしているという。

(2) 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習過程の工夫について

①社会とかかわり、ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程の工夫

1) 社会とかかわりをもって学ぶことができる学習過程

今回は、導入段階で「マイシューズを作ろう」として、児童に自分で考えた靴をイラストや言葉で表現させた。全体的にはデザインを考えようとしている児童が多く、実際にカラフルに仕上げているものがある。もちろんイメージの部分でしか考えていないものもあり、実現不可能の事柄もある。

そこで、まず実際に購買に関わる保護者の意見を入れることで、消費者の考えを取りあげ、生かすことができた。さらに、今回は見学のまとめで、工場の人たちが工夫しているポイントを3つに分け、それぞれ付せん紙の色で児童に意識させて、マイシューズを再設計させている。(機能:ピンク)(デザイン:青)(販売:黄色)

これにより、事前に考えたアイデアに見学後に分かった工夫が加わり、見学学習の成果を生かした話し合いができた学習過程となった。

2)ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程

今回は先に副読本でおおよその知識を勉強し、その後最初の設計を行った。そして工場の人たちの工夫をまとめた後、付せん紙を用いたポイントを意識した再設計を行った。そのため、児童はグループでおすすめの靴を作る際は、一人ひとりのアピールポイントを生かし、一人の意見に流されることなく、付せんを参考に話し合いを進めることができた。

さらに付せんの色でバランスを考えながら、話し合いを深めることができた。またグループには班長をはじめ、それをサポートする児童がおり、話し合いをリードすることができた。

②社会と自分とのかかわりを意識し、学習のめあてを明確にもてる学習問題の工夫

今回はマイシューズを2回設計している。時間的に余裕がないと実際には難しいものであるが、次のことから工場の人たちの工夫を考えるという学習問題を明確にすることができたと思われる。①副読本で知識を得る。②知識からマイシューズを設計する。

③靴を設計することで工場見学の視点が生まれる。

④視点を持って見学でき、見学から工夫を見つけることができる。

⑤見学をまとめるだけでなく、それを生かして再設計を行う。

⑥靴設計の3観点を話し合いの観点とし、班のメンバーの設計のポイントを確認しながら、班の「おすすめのくつ」を作る。

つまり、知識を見学で確認し、実際の工夫を見学で知り、それらについて話し合い、学習のめあてを明確にもつことができたと思われる。

(3)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習活動と支援・評価の工夫について

①人や社会とのかかわりを大切にしたい学習活動と支援の工夫

工場見学の成果のふり返りとしては、見学した時のメモをまとめたものから、工場の人たちの工夫を付せん紙の色で意識させることができた。「機能や安全」をピンクに、「デザイン」を青に、「販売」を黄色にすることで、それぞれのバランスをさらに意識することができた。

②社会を実感し、考え判断する力を育てる体験的な活動と支援の工夫

マイシューズを見学前に設計させておき、見学と話し合いを通して、その設計を今度はグループのおすすめの靴に仕上げる過程は、紙上ではあるが体験的な活動である。もちろん見学も体験的な学習であり、その時の視点はやはりマイシューズの体験が関連する。

最初のマイシューズそのものは再設計の時はそのまま採用されないが、見学で分かったポイントを生かして納得することができた。また、マイシューズの設計で含まれた自分の思いのあるポイントは、付せん紙を用いた話し合いの中で、友達から認められる場面があった。これによりグループでのおすすめの靴の要素となり、無駄とはならず生かされることになったと思われる。

③ともに学び、考えを深め合う活動と支援の工夫

見学で分かった工場の人たちの工夫を、色分けした付せん紙で考えることで、児童が学んだ事を視覚的に明らかにすることができた。さらに単元計画に従い授業の振り返りを行っており、学習している内容の意味を見童が学習の流れの中で意識できていた。そしてその都度教師がふりかえりシートやワークシートに朱書きを入れ、個々の見童のよさを浮かび上がらせ、自信を持たせることで、話し合いで見童が意見を言えるようになったと思われる。特に毎回朱書きを行うことは難しいかも知れないが、ふりかえりシートでは教師が見たことを確認することを示す印があるだけでも効果があると思われた。

④自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる評価と指導・支援の工夫

今まで、「足を保護するもの」や「ファッション」、それに「速く走る道具」など、一人一人靴に対する思いは違っていたが、身近なところでその靴の多くが作られており、それにはいろいろな人や地域も関わっていることが分かった。さらに、自分でマイシューズを設計してみると、やはり靴製作にはニーズがいろいろあることが分かった。それらを受け入れつつ、消費者に喜ばれる製品を作る工夫や願いについて考える場面があり、見童にとっても学習の意義が見られた単元であった。

この中で教師はいろいろなワークシートを作成し、見童が活用・記録・比較などができるようにした。そして教師が毎回ワークシートを確認するとともに朱書きやコメントを入れることで、見童は学習の確認ができ、学習への自信を持つことができた。さらに、これからの勉強する手立てや内容も示すことで、その具体的な方向を見童が知ることもできた。

このように工夫された評価を繰り返し行うことで、見童は少しずつ変容してきており、効果的な指導に生かされたと考えている。

10 研究の成果と今後の課題

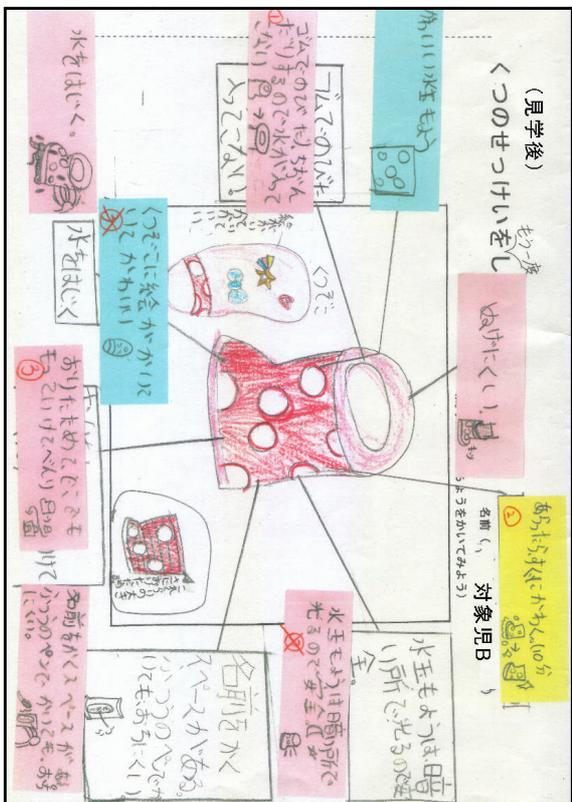
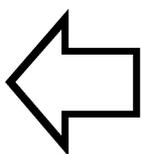
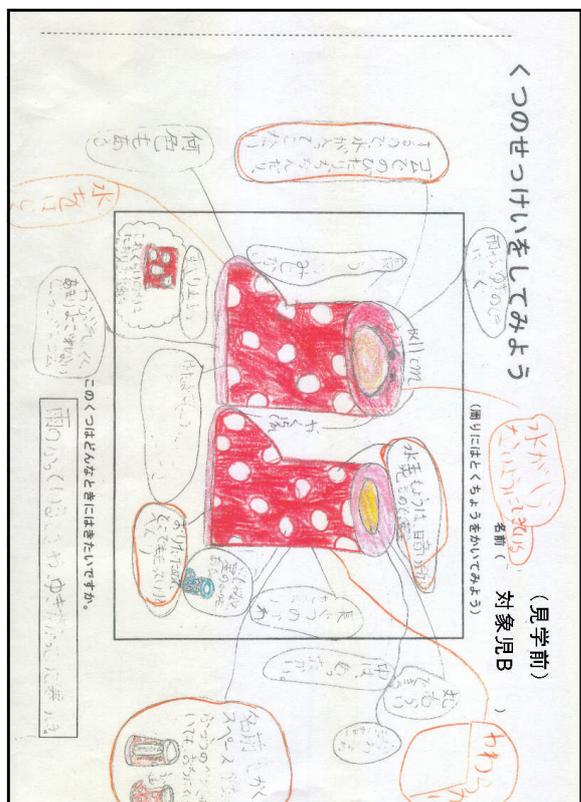
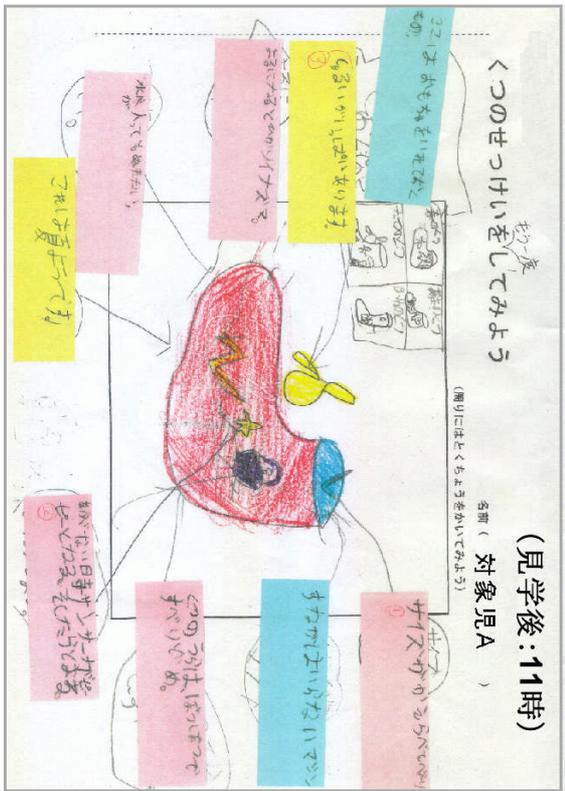
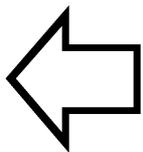
本単元では、社会に働きかける力を育てる教材開発・学習過程の工夫・学習活動における支援や評価の工夫について研究を進めてきた。

これらを総合した手立てとして、身近にある工場を教材化し、単元を通して「マイシューズを作ろう」という投げかけをし、個人の問題意識を高めたことが、学習意欲を持続させるモチベーションとなったと思われる。本研究では研究の視点にもとづき、授業では具体的な学習活動を進めることができ、研究主題の目ざす考え方に近づけたと考えている。

今後の課題としては、以下の点が考えられる。

- ①見学のバリエーション(施設・方法など)の必要性
- ②見学をより有効に生かせる学習過程の工夫
- ③学び合いを高めるための評価の工夫

(資料:対象児の見学後におけるマイシューズの変容)



評

栃小教研社会科教育足利支部は、「よりよい社会を築こうとする子どもを育てる社会科学習」を研究主題とし、地域とのかかわりを考えながら、自ら判断し、進んで社会に働きかける力を子どもにつけようと研究を進めてきました。自分たちの住んでいる地域の産業や消費生活の様子について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにするために、「工場」を取り上げ、自分たちの生活とのかかわりから考えていくことをねらいとしています。研究の成果を述べさせていただきます。

○ 教材の開発

子どもの実態から、授業を組み立てることが大事です。そして、子どもの関心・意欲が高まり、ねらいが達成できる題材を選ぶことも大切です。「工場」がどのような形で子どもたちに意識されているか、生活の中でどのようにかかわりがあるかを、教師側で把握しておく必要があります。

本市の副読本『のびゆく足利』でも取り上げられ、学区の中にある工場であること、子どもがよくはいている靴を製造しているメーカーであること、原材料をはじめ他の地域との関係もみられることなど工場の仕事を調べることを通して、よりよい製品をつくるための工夫や努力に気づくことができる題材であります。

○ 学習過程の工夫

さらに、「マイシューズをつくろう」というテーマを設定し、自分のはくための靴を考えることによって、機能性、安全性やデザインを考え、生産者のいろいろな工夫を考え、工場の見学の課題を絞り込むことができます。また、「マイシューズ」を班で話し合い、友だちの意見も参考にしたり、工場見学を通して、よりよい「マイシューズ」の設計図を作成したりして、生産者の工夫や努力に気づくことができました。その間、教師の方で机間指導、ワークシートの支援を通して、個々の学習状況を把握しながら、学習が進められました。

子どもの実態をつかみ、「マイシューズをつくろう」というテーマを設定し、自分とのかかわりから、製品をつくる上での工夫や努力、原材料や製品がどのように動いているかなど単元のねらいを教師側でしっかり押さえて授業が展開されました。

社会科は現代社会を基盤にして考え、人と人とのかかわりを通して学習問題を追究していく教科でもあります。クラスにいる子どもも、社会の一員であります。子どもの生活背景も直接関わってくることもあります。今回は工場を取り上げて、人々の工夫や努力を学び取っていく授業展開でした。その際、教師側の教材研究として、日本の産業という視点で、現在の第2次産業の状況、グローバル化、今後の持続可能な社会などを意識しながら授業づくりをしていく必要があると思います。

これからも実践的な研究をさらに深めていただきますようお願いいたします。